

令和 3 年度 事業報告書

1. 堺あすなろ会
2. ピュアあすなろ
3. 堺あすなろ園
4. あすなろ万崎の郷
(万崎の郷・もみの木)
5. アトリエ h a n a
(アトリエ hana・ゆめ工房・デ・ハウス クローバー・Link みいけ)
6. グループホーム事業
7. フィットウェル
8. わかば
9. 陽だまり
10. 障害児通所支援事業
(Link みいけ・Link にわしろ・Link ふかい)



社会福祉法人 堺あすなろ会

令和3年度 企画研修部 事業報告

1. 研修

① 法人研修を計画、実施

令和3年度も、コロナウイルス感染状況が落ち着かず、集合研修を持つことが出来なかった。メンタルヘルスのセルフケアに関する研修を、各事業所単位で行った。

日 時：令和3年9月

場 所：各事業所において

司会者：各事業所より選抜

テーマ：「メンタルタフネスを高める」

※自分を追い込んでしまうものごとのとらえ方の癖を知り、思考パターンを変化させることによって、余裕をもって出来事、周囲の人々に対応することが出来るようにする。

② 新人研修の実施

令和3年度は、新入職員が新卒ではなく中途入職者であり、入職の時期がばらばらだったので勤務の合間を縫って、個別に新人研修を実施した。

③ 動画研修の導入

階層別研修の土台作り、利用者の高齢化に対応するために、ピュアあすなろ、成人通所事業所、児童に5分程度の動画を視聴する形式の研修を8月から導入した。令和4年7月に1年間の契約が終わるので、その時点で効果を検証する。

2. 広報

「あすなろ新聞」 4月 6月 8月 10月 12月 1月 3月号を編集・発行

3. 合同デイキャンプ

コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度も見送った。

4. 堺・ストックホルム障がい者作品交流展示会の中止

コロナウイルス感染拡大防止のため、例年2月に開催している上記展示会は開催を見送った。

5. 採用活動

マイナビ新卒採用サイトは利用を中止した。人材紹介会社や派遣職員から正規職員への移行などによって、中途採用を行った。

6. メンタルヘルス

令和3年10月、11月、全職員を対象に、ストレスチェックを行った。

令和 3 年度 車両管理部 事業報告

車両管理

○ 車両維持費

燃料費・任意保険料・車検代・点検修理代・リース料

令和 3 年度	10,660,829 円
令和 2 年度	10,508,772 円
令和 1 年度	13,344,026 円

○ 車両使用状況

年間の走行距離や使用年数等で車両の状態を把握する。

○ 登録抹消車両

- ① 日産セレナ 送迎車（平成 20 年式） 令和 4 年 3 月 25 日

○ 車両購入について

① 新車購入報告

- ・ 2021 年度 日本財団 福祉車両助成事業 決定

令和 4 年 3 月 25 日納車

日産セレナ送迎車（普通車）の整備

助成金 1,560,000 円

自己資金 710,090 円

事業費総額 2,270,090 円

② 各種団体への補助金・助成金の申請

- ・ 2021 年度 日本財団福祉車両助成金

送迎業務

○ 送迎担当者会議 （2 ヶ月に 1 回）

- ① 送迎に関する課題（停留所やコース、到着時間等）の検討
- ② 各事業所による情報交換
- ③ 事故・トラブルの報告
- ④ 各事業所への配車の調整

○ 送迎ドライバーとの連携と情報交換

- ① ドライバーの健康状態の把握
- ② 業務内容の確認

○ 法人車両の事故・トラブル発生状況

事故・トラブル発生総数 16 件（前年度 26 件）

内 容	件数	状 況
人身事故	0	
車対車	3	・すれ違いざまミラー同士接触 2・バックした際車両に接触 1
自損事故 物損事故	5	・事業所敷地内でフェンスに接触 2・団地内の縁石に接触 1 ・事業所敷地内で農機具に接触 1・バックした際石に接触 1
トラブル	4	・事業所内に駐車中、当て逃げされる 1・原因不明の衝突痕 1 ・側溝に脱輪 1・ぬかるみにタイヤがめり込む 1

内 容	件数	状 況
苦情	3	・納品の際、歩道上に駐車し抗議される 1 ・交差点で右折の際後方からクラクションを鳴らされ、後ほど電話でも運転操作が悪いと抗議される 1 ・乗降の際、止まっていた送迎バスが邪魔だと電話で抗議される 1

○ 安全運転講習

各事業所にて、安全運転の啓発及び交通事故防止のための講和と交通安全啓発 DVD を鑑賞する。

・堺あすなろ園	11 月 19 日
・ゆめ工房、Link みいけ B 型	12 月 4 日
・Link グループ	12 月 11 日
・デイハウス クローバー	12 月 13 日
・ピュアあすなろ	12 月 15 日、22 日
・アトリエ hana	12 月 18 日
・万崎の郷グループ	12 月 23 日
・フィットウェル、GH、わかば	12 月 24 日

○ 災害発生時および非常事態時の送迎 緊急帰宅時送迎マニュアルの作成

○ 送迎時の新型コロナウイルス感染予防対策

- ① 乗車時及び乗車中の健康観察
- ② 乗車時の手・指のアルコール消毒
- ③ 窓を開けたり、外気循環モードによる空気の入れ替え
- ④ 密集の緩和対策で、送迎車両を増車して乗車人数を減らす（一部事業所）
- ⑤ マスク着用の声掛け
- ⑥ 車内での私語を出来るだけ控える

事業の総括

今年度も適切な車両管理及び安全・安心・快適な送迎を目指して事業を進めてきた。

毎年の車両維持費が気になるころではあるが、今年度はガソリン・軽油価格が高騰し、昨年度に比べ 1,266,204 円燃料費が増加していた。しかし、その他の経費がマイナスで、差し引き 152,057 円の増額で抑えられたことには安堵している。今後もエコ運転を心がけ、車両を大切に扱うことでさらに維持費を低減できるようにしたい。

事故・トラブルに関してだが、発生件数が昨年度に比べ 10 件減少している。人身事故も無く、自損事故も 9 件減少したことは評価できるが、今後もさらに件数が減少していくよう気を緩めず、安全運転講習等で無事故を目指していきたい。

送迎では、グループホームから通所されるご利用者が年々増加している。送迎コースや送迎先も複雑になってきているので、各事業所間での連携と協力体制をしっかりと築いていく必要がある。

令和3年度 ピュアあすなろ 事業報告

利用者数 (令和4年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
施設入所支援	50	50	49.7	99.4%
生活介護	40	48	46.6	117%

短期入所

<今年度利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実利用者数	32	18	41	43	36	38	48	48	51	41	11	13	70
延利用者数	43	29	86	91	77	77	101	100	104	59	11	14	792
延利用日数	192	156	311	346	272	306	365	351	356	381	253	266	3555

《事業の総括》

令和3年度も、新型コロナウイルスの対応に翻弄された。感染症の具体的対応としては、濃厚接触者になる定義に当てはまる事を極力避ける為、生活スタイルの変更や活動・イベントの取り組みの変更をおこなった。また、新型コロナ陽性者が施設内で発生した時の事を考え対策の検討も行う。

実際に、利用者の皆様やご家族の皆様に帰宅制限や外出制限などにご協力頂いたこともあり、入所利用者で新型コロナウイルスに感染された方はいなかった。

短期入所事業においては、2022年1月中旬からロングでの利用を希望する方を受け入れる方法に切り替え、6名程度の方を受け入れた。

支援の内容

<活動支援>

(1) 日中活動（生産活動）

できるだけ個別のニーズに沿った支援ができるよう、4つのグループ分けを行い、軽作業・健康維持向上・自立課題制作・リサイクルなどに取り組んだ。コロナ禍で木管の作業時間の短縮や鉢底ネットの継続も難しくなり、授産全体の収益が落ち込んでいる

難しい課題ではあるが新たな授産活動の発掘や順調に収益が伸びているスピッツ活動の拡大も業者と相談していき、収益の確保を考えていく必要がある。

授産収支

収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
184,626 円	142,742 円	41,884 円	243 円

(2) スポーツ及びクラブ活動

- ・リズム体操・・・多目的室で時間や人数を調整し実施した。
- ・調理クラブ・・・お好み焼きやどら焼きを作る。
- ・レクレーション・・・体操、塗り絵、缶当て、風船バレー等を行った。

<全体行事>

(1) 年間行事

感染対策を考慮し、工夫して実施した。

7月：七夕バーベキュー 8月：花火鑑賞・納涼祭 10月：フリーマーケット

12月：焼き芋 クリスマス会 1月：新年会 3月：ひな祭り

(2) 余暇活動

- ・季節余暇 10月・・・ハロウィン 2月・・・節分 4月・・・花見
- ・デリバリーDay マクドナルドやガスト(ファミリーレストラン)のデリバリーを利用した。

<生活支援>

(1) 環境整備

日常掃除の実施。ケルヒャーを活用した床掃除。大掃除を年 2 回実施・定時トイレ掃除の実施・洗濯機の槽洗浄の実施。物品管理・リバルスの散布を 1 日 2 回実施・衣替えを年 2 回実施・居室内タンス内の整理整頓の実施・布団の入れ替え年 2 回・節電に関する啓発・ゴミの削減に努めた。コロナウイルス対策として、消毒の強化を行った。

<その他>

(1) 防災 ①防災訓練（消防署立会）新型コロナウイルスの影響で、消防署の立会は中止となる。

（火災避難訓練 自主訓練）4 月 17 日・5 月 19 日・6 月 16 日・10 月 5 日

（夜間地震・火災避難訓練 自主訓練）12 月 8 日

（洪水、敷地内浸水および垂直避難訓練 自主訓練）R4.2 月 15 日

②防災設備点検 10 月 3 月

④非常食 1 週間分を備蓄

(2) 自治会

月 1 回のミーティング実施。写真・カレンダー販売・おやつ作り・慰労会を実施。

(3) ピュアだより発行（1 か月に 1 回）ブログ更新（不定期）

(4) ヒヤリハット

各支援者が遭遇し問題と感じた事柄をヒヤリハット項目で記入する。その内容を会議で、検討し改善するようにし、2 ヶ月後に振り返り報告を行った。

(5) 研修

- ・ 法人研修 各事業所にて実施となる。会議の時に 2 回に分かれ行う。
- ・ 「メンタルタフネスを高める」
- ・ ケース会議を行い、利用者の状況の把握と支援の方法を検討する。
- ・ 交通安全講習会、新型コロナウイルス感染症対応、防護服の着脱の仕方、災害時の体制 AED の使用動画、職員の研修発表、虐待防止研修
- ・ 外部研修内容を、会議などで全職員へ伝達。
- ・ 資格取得の推奨

給食

<目的>

各個人の嗜好や量に気をつけ、季節感あふれる楽しい給食にする事を心掛けている。また、肥満傾向にある利用者が多い為、献立には野菜を多く取り入れ、油物を減らすなど、肥満改善のための給食を心掛けている。

<給食の状況・内容>

普通食ではあるが、食事に配慮が必要な人に対しては、その状況に応じて提供できるように努めている。内容としては、咀嚼能力の低い人などに対して、主食であるご飯をお粥にし、おかずや汁物の具・麺類等を細かく刻んで食べやすくしている。（一口大・荒刻み・小刻み）食事の量に関しては看護師・現場職員と話し合ったうえで決め、盛り付けの際に各個人に応じて調節している。

また、体調不良者に対してはその症状に応じてお粥食を実施するなど対応してきた。食物アレルギーのある利用者については、細心の注意を払い、アレルギーの元になる食品の除去や、代替食を実施した。

そして適温給食の実施にも取り組み、温かいものはより温かく、冷たいものはより冷たく食べてもらえるように努力している。

<衛生管理・食中毒の予防について>

厨房内は常に衛生的且つ安全な状態を保つ為に、清掃・整理を徹底した。

<平均給与栄養量>

エネルギー	1779kcal	ビタミン A	823 μ g
たんぱく質	79.4g	ビタミン C	144 mg
脂質	48.3g	カルシウム	650 mg
塩分	8.5g	食物繊維	20.9g

<月別事業>

5月26日 春の健康診断実施

利用者：尿検査・血液検査・身長・体重・血圧・胸部レントゲン・心電図(男性のみ)

職員：尿検査・血液検査・身長・体重・血圧・胸部レントゲン・腹囲・聴力検査・心電図

6月25日 65歳以上の新型コロナワクチン1回目（集団接種会場にて3名施行）

16日 芝元先生の血液検査（15名施行）

7月12日 新型コロナワクチンの研修（みきたクリニック）

16日 65歳以上の新型コロナワクチン2回目（集団接種会場にて3名施行）

18日 新型コロナワクチン1回目（ピュアにて52名施行）

8月15日 新型コロナワクチン2回目（ピュアにて57名施行）

9月 8日 新型コロナワクチン2回目（集団接種会場にて1名施行）

27日 秋の健康診断実施

利用者（血液検査・身長・体重・血圧・肝炎検査）

職員（血液検査・身長・体重・血圧・肝炎検査）

23日 芝元先生の血液検査（15名施行）

インフルエンザワクチン接種（75名）

風疹抗体検査（対象者7名のみ）

肝炎検査（15名）

2月27日 コロナワクチン3回目（ピュアにて75名施行）

<感染症>

感染性胃腸炎：利用者3名、職員0名

インフルエンザ：利用者0名、職員0名

新型コロナウイルス：利用者0名、職員3名

新型コロナウイルス対策についてコロナワクチンを3回、利用者・職員も3回接種行う。

抗原検査キットを購入し、疑いのある、利用者、職員に検査を行う。また、スマホ検査センターを利用し、発熱、風邪症状のある職員、利用者にPCR検査を行った。

定時に消毒液散布や、ドアノブ・手すりなどを消毒し接触感染防止に努めた。

<今年度の振り返りと今後の課題>

・世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大から2年が経った。感染対策の必要性が見直されている中、私達看護職も困惑しながら、他種職と協力し合いながら、この一年を乗り越えてきた。今のところ大きな感染は当施設ではないことが幸いだと思う。今後もより一層に他種職との連携に努めていきたいと思う。

・新型コロナワクチンは、去年の2月から医療従事者から始まり、次いで高齢者・基礎疾患を有する者と順次行い、今現在は当施設の利用者及び職員は3回目の接種をほぼ全員無事に終えている。

・利用者のワクチン接種は1回目と2回目はファイザー、3回目はモデルナと交接種を行い、抗体値は上昇する一方で、副反応が出る頻度は高かった。37.0℃以上の発熱した利用者が25名、解熱剤を服用した利用者は13名、容体が急変した利用者3名と、1・2回目のファイザー接種後より、3回目のモデルナ接種後は著明に現れた。男女の比率は、2対1と男性が多かった。

・利用者の平均年齢は、男性52歳、女性が54歳と高く、障がい（ダウン症など）があると老いが1.5倍速まるため、施設の高齢化が年々問題視されている。認知症、女性特有の疾患、白内障手術、転倒そして骨折、食事摂取機能の衰えなど、それに加えて意識レベル低下、救急搬送数が増え、AEDの使用もみられた。

利用者の高齢化に伴い、さまざまな病気やケガがみられ、骨折も増加傾向にある。転倒予防や日常生活動作の維持に努めていくことが今まで以上に必要であり、また容体急変など起こりうる可能性もあるため救命講習などを行い急変時の対応を再確認する必要がある。

令和 3 年度 堺あすなろ園 事業報告

利用者数 (令和 4 年 3 月 31 日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
就労継続支援 (B 型)	12	12	10.68	89 %
生活介護	38	43	37.16	98 %
合計	50	55	47.84	96 %

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
就労継続支援 (B 型)	0	0
生活介護	1	0
合計	1	0

＜事業の総括＞

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として、屋外での活動を制限したり、室内でも密になる機会を極力避けたり工夫をしながら対応してきた。昨年度より開始した作業が軌道に乗り始め、就労継続 B 型の授産収入も増えてきていたが、生活介護の方は作業内容によっては新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けるものもあった。

園においても、令和 4 年 2 月 3 日に利用者 1 名の新型コロナウイルス感染が判明し、その後も体調不良者が出たので、全体検査を実施したところ利用者 7 名・職員 2 名の感染者が判明した。その為、2 月 3 日から 14 日まで休所する事となった。また、2 月 26 日にも利用者 1 名・職員 1 名の感染が分かり、3 日間の休所となった。休所の間は電話連絡で利用者の状況確認をし、スムーズに通所再開につなげられるように対応してきた。

行事・自治会活動

＜行事＞

- ・新型コロナウイルスの感染予防対策のため、施設外での各行事は中止となる。
- ・施設内イベントとして、畑の芋ほり・焼き芋・ビンゴゲーム大会を実施した。感染対策として密を避けられるように班単位で実施する様にしている。

＜自治会＞

- ・2 ヶ月に 1 度の自治会新聞の発行を行った。行事が中止となり、各班の活動風景などを掲載するようしてきた。
- ・美化活動として玄関周りの清掃・花壇の世話などを行った。

防 災

7 月 7 日 地震火災避難訓練 (自主)

9 月 随時 各班で非常時避難場所 (福泉小学校、福泉東小学校) に徒歩にて避難訓練

11 月 10 日 火災避難訓練 (消防署立会)

- ・今年度は新型コロナウイルス感染対策をし、消防署立会の下で避難訓練を実施する事が出来た。
- ・地震火災避難訓練時、館内放送が聞こえにくい状況であったが、その後調整を行い以降の訓練においては改善されていた。

研 修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和 3 年 10 月 4 日	「メンタルタフネスを高める」	法人研修
令和 3 年 11 月 19 日	「交通安全講習会」 講師 車両部長 岩井 正信氏	
月に一度程度	ケース会議 (各利用者近況報告・検討会議を行う。)	年 9 回
随時	オンライン動画研修 障がい者虐待・介護技術・メンタルヘルス等	

<課題と反省>

今年度も新型コロナウイルスの感染予防のため、法人研修は事業所ごとで行われた。内容について法人研修会議内で研修係がプレ研修を受け、その後練習会を行い、その内容を各事業所に伝達する形で行った。事業所単位としたことで、一人一人の発言機会が増え、より深く参加できたという声があった。一方で、以前のような法人で集まって行う研修の方が各事業所の職員を知る機会にもなるので交互で行ってほしいとの意見もあった。

動画研修について、利用者の見守りや送迎の添乗業務などもあり、動画を見る時間をとることが難しく、なかなか受講期間の目安通りには研修を進める事が出来なかった。

給食

<考察・今後の取り組み>

例年同様、衛生面に留意しながら適温給食の実施、個人の食事形態の要望に沿えるように努めた。嗜好調査を参考にし、季節感や時好も取り入れた給食提供を心掛けた。

厨房職員が新型コロナウイルスに続けて感染し、弁当給食が続いてしまう時期があり申し訳なかった。休園期間（グループホーム対象）を含めた昼食は、今年度から利用を開始した弁当業者を主に喫食してもらった。きざみ食の形状も柔軟に対応してもらっているが、今後同じような事態に備えてきざみ食対応可能な弁当業者の開拓の必要性を感じた。

また、2月の選択メニューは外注利用（ラ・ムー）をしており、直前でのキャンセルが不可能だった為、弁当期間中に選択メニューを実施。喜んでいただいていたが、新型コロナウイルスの感染が落ち着くまで平時の取引業者内で収まる献立で対応していくのが望ましいと思った。

今後も感染に気を付けながら通常給食が実施できるように努めていきたい。

保健

<健康診断>1回目・・・ 11月5日（新型コロナウイルス流行につき3年度は1回のみ）

胸部レントゲン・心電図（利用者は男性のみ、職員は全員）・血液検査・尿検査・聴力
（35歳と40歳以上の職員のみ）・検便（希望職員のみ）身長・体重・血圧・腹囲

<歯科検診>

新型コロナウイルス流行につき今年度は中止

<ヘルスチェック>

毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温を測定

<ドクター相談>

毎月1回、内科医に嘱託医として往診していただいている。

<感染症（新型コロナウイルス）対策>

- ・検温（朝・夕2回。その他必要に応じて昼にも1回。）
- ・登園時及び帰宅時（送迎車乗車前）の手洗い、アルコール消毒
- ・室内換気（1時間に4～5分、風が通り抜けるように）
- ・ドアノブ等の消毒
- ・利用者のワクチン接種（他事業所利用者も含む）（ピュアあすなろ嘱託医）

1回目（ファイザー）	7月25日（日）13時より	23名
2回目（ファイザー）	8月22日（日）13時より	20名
3回目（モデルナ）	3月23日（水）9時より	43名

<振り返り>

- ・例年2回に分けて実施する健康診断だが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言を受け、今年度も1回にまとめて実施した。
- ・感染症対策として、利用者に対しワクチン接種を実施する事が出来た。事前にアンケートを取り、家庭で通院して接種できない方や慣れた場所での接種を希望される方に対して、ワクチンを用意する事が出来、安全に実施する事が出来た。

生産活動

＜生活介護班＞

生活介護班については、前年度の活動を継続し取り組んできた。前年度は夏季賞与のカットをせざるを得なかったが、今年度は授産収入も安定し、賞与も支給する事が出来た。また今年度一年間かけて、利用者工賃の支給を時給制から月給制に移行する事を検討し、評価表の見直しなども行ってきた。次年度より実施する予定である。

利用者・職員も現在の作業環境に慣れ、作業効率は上がってきている。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い作業の受注量の減少などが起きはじめ、来年度以降の授産収益に支障が出てくる恐れがあり、検討が必要である。

現在行っている作業

- ・木管の糸外し作業
- ・割りばしの袋入れ作業
- ・タオルの選別・袋入れ作業
- ・棚板につける部品へのバネ付け作業
- ・検尿に使用するキットの袋入れ作業
- ・空き缶つぶし・リサイクル作業

＜就労継続B型班＞

就労継続B型班については、前年度の反省より工賃規定の見直しを行い、利用者工賃の見直しを行った。年度当初は授産収支がなかなか伸びなかったが、検尿作業が軌道に乗り始め、授産収入が少しずつ増えてきている。また年度末より新たな作業にも取り組み始めており、次年度以降の収支状況によって出来るだけ利用者に還元できるようにしていきたい。

現在行っている作業

- ・自主製品（サンスキットフキン等）
- ・棚板につける部品へのラベル付け作業
- ・プラスチック製品のラベル付け、梱包作業
- ・検尿に使用するキットの袋入れ作業
- ・（今年度より）建具部品の梱包作業

＜授産収支＞

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃／月
生活介護	464,177 円	345,810 円 (345,810 円)	118,367 円	694 円
就労継続B型	644,739 円	630,522 円 (619,940 円)	14,217 円	4,335 円
合計	1,108,916 円	976,332 円 (965,750 円)	132,584 円	

令和3年度 あすなろ万崎の郷 事業報告

(あすなろ万崎の郷・もみの木)

利用者数 (令和4年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	稼働率
万崎の郷 (生活介護)	12	15	12.5	104%
もみの木 (生活介護)	12	12	8.7	73%
合計	24	27	21.2	89%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
万崎の郷 (生活介護)	0	0
もみの木 (生活介護)	0	0
合計	0	0

＜事業の統括＞

創作活動や調理体験など全体で楽しめるよう取り組めたが、体を動かす活動は利用者の高齢化が進み、ついていけない方が出てきたため、少しでも運動してもらえるよう個々に合った機能訓練などを取り入れた。

今年度も新型コロナウイルスの感染防止に努めた。

行事

新型コロナウイルスの感染拡大のため、各行事中止。

日中活動

万崎の郷

作業に関しては木管、野菜作りに取り組み、今年度も生育状況が良く、給食や職員向け、他事業所に販売することができた。午後の活動に関しては昨年同様、新型コロナウイルスの感染予防から外に出る活動（散歩、ドライブ）やカラオケなど感染リスクが高いと思われる活動を控え、それ以外の活動を工夫して季節に合わせたレクリエーションや調理体験などを提供し、利用者のニーズに合わせて機能訓練や余暇支援を充実させるよう努めた。今後も新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、利用者に合ったペースで活動に取り組めるよう配慮し、楽しい雰囲気でも過ごせるようにしていきたい。

もみの木

今年度は、午前中は主に作業を中心として活動を行い、午後は体を動かしたり、創作や調理体験、畑で作った野菜の収穫などに取り組んだ。またコロナ禍ということもあり、散歩に行く際は人が居ない所を選び、マスクの着用・手洗い・消毒も徹底した。個々の利用者の様子に応じ、機能訓練、個々の生活のリズムを整えていくよう努めた。今後も色々な活動を通して、個々に合った余暇活動の幅を広げられるよう支援していきたい。

防災

地震・火災避難訓練（自主訓練）

〔2事業所〕 6月25日

火災避難訓練（例年は消防署立会訓練だが、新型コロナウイルスの感染予防のため、自主訓練）

〔2事業所〕 11月24日

非常災害避難訓練（大規模地震時）

〔万崎の郷〕 新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止

〔もみの木〕 5月28日

<反省>

万崎の郷

- ・自身で机の下に避難できない方は職員が枕などで頭を守るなどし対応した。
- ・声掛けでほとんどの方が避難でき、一人で動く事が難しい方は手を引いて誘導し避難できた。歩行が不安定な方や視力の低下で視界が不安な方に付き添い、安全に避難できるようにした。
- ・消防署より、通報時に・住所・施設名・電話番号・人数確認・火事の状況・住所がわからない時の目印になる建物を職員全員が実際の火災時に通報できるようにとのこと。

もみの木

- ・繰り返し訓練することで、職員も落ち着いて対応でき、的確に指示が出せるようになってきている。利用者が落ち着かない時も職員が寄り添いながら誘導でき、避難することができた。机の下にもぐることが出来ない人、落ち着きがなかった方に対しては共有し、緊急時に対応できるよう改善していく。
- ・避難時に活動を止められず、固まって動けない方がいたが、車イスを利用し、声掛け誘導により避難することができた。
- ・歩行に時間がかかる方の誘導については、不安にさせない誘導の仕方を今後も考えていく。
- ・非常災害避難訓練…避難場所、避難経路の確認をし、安全に落ち着いて避難誘導ができた。新型コロナウイルス感染予防のため、マスクを着用し、できるだけ少人数に分かれて避難訓練を行なった。車いすの誘導も安全に行うことができた。

研修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和3年 [万崎の郷] 9月3日 [もみの木] 9月7日	「メンタルタフネスを高める」 各事業所に司会をおいて進める	法人研修
令和3年 12月23日	「交通安全講習会」 講師 車両部長 岩井 正信氏	
毎月	ケース会議（各利用者の近況報告・検討会議を行う。）	年11回
随時	Web研修 食事介助 移動移乗介助 排泄介助 入浴介助 感染対策 口腔ケア リスクマネジメント 身体拘束 認知症ケア チームコミュニケーション等	

<課題と反省>

法人研修は昨年に引き続き、各事業所で行われた。テーマもメンタルタフネスということで各職員、自分自身を見つめながら研修を受けることができた。他の研修においても一つ一つ積み上げていく形となった。今後は意見を聞きながら内容を深めていく研修をしていきたい。

保健

<健康診断> 11月5日（木）（内容）胸部レントゲン・心電図（男性）・血液検査・尿検査・血圧・体重

<歯科検診> 実施なし

<ヘルスチェック>

毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温の測定を行う。

<ドクター相談>

毎月1回、嘱託医（内科医）往診。

<感染症対策>

■新型コロナウイルスの感染予防対策

- ◎通所時及び帰宅前の手洗い・アルコール消毒
- ◎検温（通所後、帰宅前）
- ◎室内換気
- ◎ドアノブなどのアルコール消毒
- ◎マスクの着用
- ◎うがい・手洗いをこまめに行う。
- ◎ワクチン接種 芝元ドクター（ピュアあすなろ訪問医）
 - 1 回目（ファイザー） 7 月 25 日（日）
 - 2 回目（ファイザー） 8 月 22 日（日）
 - 3 回目（モデルナ） 3 月 23 日（水）

授産活動

万崎の郷

今年度より野菜の販売、木管、廃品回収で得た収入で年二回、夏季、冬季賞与を支給。全体の収支状況としては前年度の繰り越し分を維持した。野菜の販売は主に堺あすなろ園の給食に使用してもらい、他事業所や職員向けにも販売。前年度よりも売り上げを上げることができた。廃品回収については単価が下がり、昨年度、リサイクルの回収を止めたことで集まらなくなったことも重なり、収入が減っている。活動に関しては木管作業の取り組み方を工夫し、利用者に合った器具を作って作業に取り組んでもらえる機会を持つようにした。

次年度も野菜作り、木管作業を継続し、利用者のニーズに合わせた機能訓練や余暇活動等を充実させ、個々の能力を維持・向上できるよう努める。

もみの木

中谷金属工業（株）は、ハトメ作業が減り、減収となったが、前年度大幅減となっていた塩久印刷紙器（株）が1, 5 倍まで回復した。OM ネットワークの箱詰め作業や、手拭い・タオルの作業などは概ね安定的に受注があり、その収入は前年度同様であった。また、今年度は評価表の見直しを行い、個々の授産活動に見合った工賃支給を行えるようにした。全体の授産収入は前年度と同程度で毎年、収支残高の赤字が続いていたが、今年度は僅かにプラスとなった。取り組み方については午前を作業時間とし、その中で個々の支援計画に基づき活動する形で進めた。

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者 1 人当たりの 平均工賃／月
万崎の郷	93,677 円	87,111 円 (28,000 円)	6,566 円	156 円
もみの木	201,002 円	187,270 円 (156,480 円)	13,732 円	1,087 円
合計	294,679 円	274,381 円 (184,480 円)	20,298 円	

令和3年度 アトリエhana 事業報告

(アトリエhana・ゆめ工房・デイハウス クローバー・Link みいけ)

利用者数 (令和4年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
アトリエhana (就労移行)	7	2	2.58	37%
〃 (生活介護)	10	9	7.37	74%
クローバー (生活介護)	10	7	3.78	38%
ゆめ工房 (就労継続B型)	12	12	9.21	85%
Link みいけ (就労継続B型)	10	9	7.99	80%
合計	49	39	30.93	63.1%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
アトリエhana (就労移行)	2	0
〃 (生活介護)	0	0
クローバー (生活介護)	1	0
ゆめ工房 (就労継続B型)	1	1
Link みいけ (就労継続B型)	0	0
合計	3	1

＜事業の総括＞

個別支援計画に基づき、ご家族・相談支援事業所等の関係機関との連携を図りながら利用者本位の支援を行った。昨年度に続き新型コロナウイルスの影響より行事は全て自粛となった。感染対策を講じながら、主に土曜開所日の過ごし方について、各事業所の利用者のニーズに沿った内容を実施することができた。中でも動画をテレビに映し出してのリズム体操・エクササイズについては各事業所にて取り入れ体力の維持向上に努めることができた。ウェブ（ZOOM）を用いての交流会は昨年度に続き就労継続B型間のみで実施したが、今年度は互いにPCでの交流ということもあり昨年以上にとても好評だった。次年度は交流の幅を広げていきたい。

事業形態別において、就労移行は1名のみであるが就労者を輩出できた。就労継続B型においてはコロナ禍で受注・販売量の波はあったものの、年間通して作業の継続提供をすることができた。

生活介護（アトリエhana）については利用者の意向・状況に応じて2階の就労班との連携を取り、適宜作業を通しての交流を図った。デイハウスクローバーについては、外出制限等の欠席が多くみられた際には、通所している利用者について、より個々のニーズに応じた手厚い支援を行うことができた。

＜保健＞

- ・ヘルスチェック（アトリエhana・ゆめ工房・デイハウスクローバー・Link みいけ）月1回
- ・バイタルチェック（デイハウスクローバー）週1回
- ・健康診断 年1回

＜防災＞ ・避難訓練 年2回 防災訓練 年2回

＜研修＞

実施日	テーマ及び講師	備考
9月1日 9日	「メンタルタフネスを高める」 各事業所にて実施、支援員の司会のもと進める	法人研修
12月	「安全運転講習」12月4日・13日・18日 計3回 講師 堺あすなろ会 車両管理部長 岩井正信氏	
8月2日～	動画研修（キャリアパスアカデミー）	
毎月	ケース会議（各利用者の近況報告・検討会議を行う。）	年12回

アトリエhana

<就労移行支援>

年間を通し新型コロナウイルス感染症の影響にて各所への見学・実習などの取り組みが制限され、また支援学校からの見学・実習を制限・停止する期間を設けざるを得なかった。その為、新規利用者の確保が困難であった。また日々の活動に関しても体力作りを兼ね実施されていた従来のポスティングは実施するも社会の自粛ムードから受注件数の減少へと繋がった。しかしながら、堺市授産活動支援センターより紹介頂き、下期には新たな業者よりポスティング業務を委託され実施することが出来た。今年度は令和4年1月に1名だけではあるが就労者を出すことができ、ジョブコーチ支援等も活用し継続して働き続けることができる基盤を整えることができた。

<生活介護>

利用者の高齢化に伴い障がいの重度化や認知能力の低下が著しく見られるようになったケースが出て来ている。これに伴い症状のある利用者に対しての他利用者への理解の促しが必要と思われる場面が多く見受けられているものの、十分な手立てが打てていない現状である。

現在、取り組んでいるトールペイントにおいては、手先を使うといった点からも継続的に取り組む方向性ではあるが、これまで出来ていた諸活動において認知・体力面において高齢化に伴い、継続が難しい場面も出てきており、活動の提供方法の工夫と共に新たな活動への取り組みが必要と思われる。

<授産活動>

- ① トールペイント・・・自主製品の製作、販売、トールペイント小物販売会社の下請けの継続
- ② その他・・・・・・・下請け作業 ポスティング

<行事・その他の活動>

- ① 買い物 調理体験 清掃 洗濯など
- ② 挨拶 返事 他者との距離感など基本的なマナーの習得
- ③ 体を動かす時間を設け、健康維持・管理
- ④ 利用者自治会活動（余暇についての意見交換・調理体験内容等）

ゆめ工房

<就労継続支援B型>

新卒生1名を加え、13名でのスタートとなったが、4月末に1名退所（就Aへ）、昨年度と同じく12名の現員にて年度を終えた。

1名はサ高住外出制限のため今年度の通所は叶わなかった。

行事においては昨年度と同じく自粛、Link みいけとのリモート交流会のみの実施となった。

授産については6月より HACCP 導入により衛生管理マニュアル等の作成を行った。

<授産活動>

- ① シフォンケーキ等菓子の製造販売
- ② 下請作業（株）大賀・検査キットの組み立て・封入

<その他の活動>

- ① 利用者自治会活動（余暇についての意見交換等・会合は不定期に開催）
- ② 余暇支援（土曜日）：壁面製作・調理実習・ゲーム・運動・映画鑑賞・ウォーキング等

<行事・活動>

1月 交流会（Link みいけと合同・ZOOMにて）

Link みいけ

<就労継続支援B型>

9名の利用者でスタートし、同9名の在籍にて年度を終えた。新型コロナウイルス感染拡大により行事は自粛となった。授産についても新型コロナウイルスの影響にて、上期は下請け作業（手ぬぐい）の入荷が途絶えることが多かったが、徐々に戻ってきた。今年度はアトリエ hana よりお墓参り代行サービス（墓地清掃）を受け継いだ。現地まで車で約10分と条件は良くなったが、盆前の清掃依頼が重なり利用者・支援者ともに体力的に厳しく、今年度をもって請負を終了することとなった。

次年度はこれに代わる地域と関わることでできる取り組みを考えていきたい。

行事については毎年1月にはゆめ工房と新年会を実施していたが、今年度もWEBでの交流を行った。
開所以来取り組んでいる地域清掃だが、今年度は事業所の体制により数回のみの実施となった。

<授産活動>

- ① 店舗委託販売（堺あすなろ会自主製品・陶芸・体操服（カワニシ））
- ② 自主製品・石焼き芋（11月～3月）
- ③ 下請作業
 - ・角野晒染（株）：手ぬぐい畳み・封入
 - ・宮本（株）：晒・手ぬぐい畳み・封入 ※今年度終了
 - ・（株）大賀：検査キットの組み立て・封入
 - ・森井製作所：スイッチロック（ばね）の組み立て
- 委託作業
 - ・お墓参り代行サービス（墓地清掃）

<行事>

1月 食事会・ゆめ工房との交流会（ZOOM）

デイハウス クローバー

<生活介護>

在籍8名にてスタートし、1月に死去による契約解除があり、7名での在籍にて年度を終えた。新型コロナウイルスの流行により、高齢知的利用者1名はサ高住の外出制限のため1年間通所ができなかった。通所された高齢知的の利用者も、徐々に加齢による機能低下等が見られ、午後からの活動は休息も含め、よりゆったりとした流れになってきた。重症心身利用者においても感染状況により利用を控える方もみられた。以前に比べ、利用の頻度も下がって来ている。

体力の維持の観点から朝礼時のラジオ体操及びその場足踏み、誤嚥防止を目的とした「パタカラ体操」、体力維持として午後からの「ニョロニョロ体操」「コッカラ体操」等の運動を継続した。ドライブ・大仙公園へのウォーキングは気候をみて積極的に取り入れた。

<行事・活動>

7月 七夕まつり
8月 夏祭り 10月 運動会・ハロウィン
12月 クリスマス会 1月 新春レクリエーション
2月 節分 3月 年度末お楽しみ会

お誕生日会・ウォーキング・カラオケ・絵本・買い物・調理体験

季節感を味わっていただけるような制作・レクリエーションを多く取り入れた。

<その他> ・看護師によるバイタルチェック（週1回）

・医師による医療相談（月1回）

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
アトリエ hana (就労移行)	108,318 円	180,878 円 (149,769 円)	-72,560 円	4,523 円
アトリエ hana (生活介護)	372,718 円	329,504 円 (204,159 円)	43,214 円	2,127 円
ゆめ工房	1,952,163 円	1,637,606 円 (853,000 円)	314,557 円	5,924 円
Link みいけ	1,634,565 円	1,224,617 円 (954,300 円)	409,948 円	8,836 円
合計	4,067,764 円	3,372,605 円 (2,161,228 円)	6,951,159 円	円

※デイハウスクローバーは授産活動なし

今年度のまとめ（通所事業所）

- ・利用者一人ひとりのニーズに沿って、より良い支援が行えるよう個別支援計画を立案し課題を常に目標において支援する。→各事業所の特性を生かし、体力作りや余暇活動、畑作業、製造販売、ポスティング、交流会などに取り組む。
- ・成人病や感染症の予防に努め、体力や機能面の維持向上をめざし、健康に過ごせるようにする。→今年も、マスク着用・手洗い・消毒・換気・黙食など感染予防の徹底を行った。利用者や職員の新型コロナウイルス感染があり、閉所せざるを得ない状況があったが、感染が広がらないよう取り組み、閉所時は、電話での状況確認や相談に応じるなど出来るだけ利用者やご家族の不安が軽減できるよう支援した。また、希望した利用者が、事業所でワクチン接種出来るようにし、無事に3回のワクチン接種を終えることができた。
- ・研修の機会を設け、学んだことを職員全体で情報を共有し研鑽を積み支援に生かしていく。→コロナ禍の中、実技研修は実施できなかったが、リモート研修や動画研修など取り入れ、理解を深めることが出来た。
- ・利用者の高齢化や及び家庭環境の変化に伴い、家族や関係機関と更に連携を図り、利用者の想いや状況に対応していけるよう支援する。高齢の利用者が、より安全に充実した活動や支援が行えるよう体制や活動内容を検討し進めていく。→入所施設（短期入所）や地域支援などとの連携を密に利用者が安心して快適に利用できるよう努めた。癌の発病や疾病の重篤により通所が難しくなったり、亡くなった利用者がいらっしやった。健康面に配慮し、より快適に楽しく過ごしてもらえるようにしていきたい。
- ・利用者の確保について、関係機関との情報共有を進め、新規利用者の確保や利用者に応じた場への移動を行っていく。→各事業所の状況に合わせ、新規利用者の受け入れを行うようにした。
- ・施設祭りや地域清掃等、地域における公益的な取り組みを行い、地域の方とのふれ合いを深めていく。→地域清掃は継続して行ったが、施設祭りやバザーなどイベントはほとんど中止となった。
- ・地震、風水害等様々な災害に備え、ご家族・各事業所・各関係機関などとの情報共有や円滑な連絡体制を構築し、協力連携し合えるようにする。非常時に備え、食料や備品を整備する。避難や救急蘇生法など訓練を行い、安全に迅速に対応していきたい。→各事業所が様々な災害に備えて非常災害対策を作成し、避難訓練を行った。台風や集中豪雨時に安全に送迎が行えるよう連携し合い取り組んだ。

令和 3 年度 共同生活援助（グループホーム） 事業報告

この 1 年間における成果・課題は以下の通りである。

<成果>

①新型コロナウイルス感染対策の徹底

新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、引き続き感染予防対策を徹底。利用者の朝夕のバイタルチェック（血圧、脈拍、体温、Spo2）を全員に行うとともに、サービス管理責任者への報告基準を設定。発熱等があれば必ず通院し、何らかの診断を受けることを基本とした。また、次亜塩素酸水による除菌を定期的に実施し、利用者、世話人とも手洗いうがい手指消毒の徹底、外出中のマスク着用を呼び掛けた。緊急事態宣言やまん延防止措置期間中は移動支援による外出の自粛、帰宅される利用者について感染予防の徹底をお願いし、予防に対する意識を保てるよう周知を行った。今年度は世話人 1 名及び利用者 5 名が新型コロナウイルスに感染したが、クラスター発生には至らず感染対策は一定の成果をあげたといえる。

②医療ニーズへの対応

高齢化に伴い定期通院や体調不良時の通院などが頻回になってきたことから訪問診療を積極的に取り入れる方向で検討を進めている。令和 3 年度中は一部グループホームにおいて訪問歯科の利用を開始。内科等の通院でなかなか行き届かなかった歯科治療について月 1 回程度の受診が可能になり、歯周病や虫歯予防の効果が期待される。今後は他の診療においても訪問診療を取り入れ、効率的かつ適切なタイミングで治療が受けられる環境を整えていく。

③グループホームこさか宿直体制への移行

利用者の加齢に伴う支援ニーズに対応するため、令和 3 年 6 月より宿直体制に移行した。これにより土日祝日も含めて宿直者が配置され、利用者への支援の質も向上した。

④世話人会議の定期的な開催による支援方針の統一

引き続き各ホームにおいて 2～3 ヶ月に 1 回の世話人会議を実施。ばらばらになりがちな支援方針をできる限り共有するとともに、障害特性への理解や適切な支援のあり方について各世話人に助言指導を行う機会とした。事業所としての方針のもと、世話人の個性を活かしつつ、人権意識ある支援が行われるよう会議の場を積極的に活用した。

<課題>

①利用者の高齢化

利用者の高齢化に伴い一部利用者に身体機能および認知機能の低下がみられ、従来の支援体制や住環境では十分にニーズに応えることが難しくなってきたため、一部利用者について他ホームへの転居を実施した。今後も一部利用者について他のグループホームへの転居や有料老人ホームへの転居が必要となる見込みである。高齢化への対応は「住環境」「介護技術および介護体制」「医療との連携」が重要であるが従来のグループホーム制度では十分に対応できていないのが現状である。今後も増えていく高齢期の支援のあり方について議論を重ね、できる限り本人の望む暮らしを支援できるよう努めていきたい。

②世話人の高齢化及び人員の確保

多くの世話人は各ホームの開設当初から利用者の支援に携わっており、利用者と共に年数を重ねてきている。利用者にとって安心できる存在であり、各利用者の安心安全な生活に大きく貢献しているといえるが、一方で世話人の高齢化に伴うケガや病気、家族の介護等を理由とした休暇が必要になるなど支援体制の脆弱さが年々浮き彫りになっている。今後段階的に新たな世話人を確保し、徐々に移行を進めていきたい。

＜入居者状況＞ 令和４年３月３１日現在

ホーム名	定員	内訳	退去者	新規入居者	現員
あすなろ	５	男５	０	０	５
ラピスくさべ	７	男４、女３	０	０	７
ラリマ福泉	５	男５	０	０	５
くさべ	４	男２、女２	０	０	４
こさか	４	男２、女２	１	１	４
サンももやま	５	男３、女２	２	２	５
第２ももやま	５	男５	３	０	２(-３)
いずみ	９	男９	０	３	８(-１)
北斗	４	男４	０	０	４
計	４８	男３９、女９	６	６	４４人

＜各ホームの支援体制＞ ※休日体制の◎は日中支援体制あり

ホーム名	管理者	サビ管	生活支援員	世話人・生活支援員	宿直体制	休日体制
あすなろ	1 名	1 名	1 名	3 名	×	○
ラピスくさべ				8 名	○	◎
ラリマ福泉				5 名	○	◎
くさべ				2 名	×	×
こさか				5 名	○	○
サンももやま		1 名		4 名	○	◎
第 2 ももやま				3 名	○	○
いずみ				7 名	○	◎
北斗				3 名	×	○

＜障害支援区分別の入居者数＞ 令和４年３月３１日現在

非該当	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
０	１	３	１３	１５	８	４	４４

令和 3 年度 地域生活支援センター「フィットウェル」事業報告

1. 計画相談支援・障害児相談支援（令和 4 年 3 月 31 日現在）

・契約者数...計画相談支援 314 名、障害児相談支援 36 名、地域定着支援 42 名

2. 計画相談支援（サービス等利用計画作成件数）※（ ）内は令和 2 年度

指定障害児相談支援（障害児支援利用計画作成件数）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	29 (29)	19 (18)	25 (21)	25 (24)	27 (20)	25 (23)	37 (25)	20 (25)	29 (31)	29 (24)	36 (27)	32 (26)	333 (293)

モニタリング件数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	104 (134)	106 (112)	104 (125)	99 (109)	107 (104)	108 (130)	103 (105)	116 (125)	109 (112)	127 (97)	102 (100)	117 (114)	1302 (1367)

3. 指定一般相談支援 ※（ ）内は令和 2 年度

地域定着支援契約者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	42 (46)	43 (46)	43 (46)	43 (45)	43 (45)	43 (44)	42 (44)	42 (45)	42 (45)	42 (45)	42 (44)	42 (43)	509 (538)

地域定着支援における緊急時支援実施件数 ※（ ）内は令和 2 年度

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	1 (0)	1 (1)	2 (1)	1 (6)	1 (4)	0 (2)	1 (1)	1 (0)	3 (2)	7 (0)	5 (0)	1 (5)	24 (22)

地域移行支援契約者数...0 名

4. 会議又は研修への出席

会議	研修・講師
・南区障害者自立支援協議会（月 1 回） ・南区指定相談支援事業所連絡会（月 1 回） ・堺市障害者相談支援専門員協会（月 1 回） ・サービス担当者会議（随時） ・所内会議（年 6 回）	【研修】 法人研修（地域支援部にて実施） 障害者総合支援法における指定事業者集団指導（web） 各関係機関主催による研修会（随時）

5. 今年度の総括

平成 30 年度より常勤専従 4 名、常勤兼務 1 名（管理者）、非常勤専従 1 名、非常勤兼務 1 名の 7 名体制。うち 2 名は主任相談支援専門員であり、障害者自立支援協議会への参画や、地域の相談支援事業者をサポートする役割を担っている。また、事業所としても積み重ねた相談援助技術のノウハウを活かして、地域社会に貢献するため、新規に開設する相談支援事業所に対するコンサルテーション事業を実施。5 事業所の相談に応じ、開設前段階から運営のノウハウや相談支援専門員としての心構え、相談支援を行う上でのポイント等についてアドバイス。個々の経験に応じた対応を行い、いずれの事業所も事業が軌道に乗りつつある。今後も地域の相談支援がより充実するよう積極的に取り組んでいきたい。

指定特定相談支援、障害児相談支援については引き続き多くの方に利用いただき、サービス利用のための計画案作成やサービス利用状況を確認するためのモニタリングを実施。障害者総合支援法となる以前より関わる利用者はすでに10年以上の関わりがあり、利用者には日常生活を送るうえで安心して相談いただける機関となっている。また、当事業所が信頼できる機関であり続けるために相談支援専門員間の情報共有や助言指導が随時受けられる体制に重きを置き、毎日のミーティングでの経過把握および情報の共有、管理者や主任による助言指導が随時受けられるよう心掛けた。

指定一般相談支援（地域定着支援）においては主に地域で一人暮らしをしている方や高齢の家族と暮らす方と契約し、地域で安心して生活が続けられるよう、24時間体制で利用者からの電話による相談を受けるとともに、必要に応じて利用者の障害特性に起因した緊急事態に対し、電話や訪問による対応を行い、利用者の救急搬送時や急な体調不良、住宅のトラブルなど緊急時に必要な支援を行った。これまでも緊急的な支援は数多く行ってきたところであるが、今年度は新型コロナウイルス感染時の対応なども多く、昨年度に比べて対応件数は増加した。

今後も「理念に基づいた支援」「法令の遵守」「チーム支援」「資質の向上」「関係機関とのネットワーク」「社会への貢献」をキーワードに取り組み、地域に暮らす障害のある方やそのご家族にとって必要とされる相談員、事業所となれるよう研鑽を積み重ねていきたい。

令和３年度 地域活動支援センター「わかば」事業報告

１．延べ通所者数

障害種別	延べ通所者数	18 歳未満	18 歳以上 65 歳未満	65 歳以上
身体障害	11 人	8 人	3 人	0 人
知的障害	1,804 人	0 人	1,765 人	39 人
精神障害	418 人	0 人	418 人	0 人
発達障害	0 人	0 人	0 人	0 人
高次脳機能障害	0 人	0 人	0 人	0 人
難病	0 人	0 人	0 人	0 人
不明	0 人	0 人	0 人	0 人
家族	0 人	0 人	0 人	0 人
小計	2,233 人	8 人	2,186 人	39 人
見学・体験者数	81 人	2 人	78 人	1 人
合計	2,314 人	10 人	2,264 人	40 人

２．プログラム支援

プログラム名称	日時	実施場所	延べ活動回数	延べ参加者数
さくら会	第２日曜日	別紙参照	8 回	117 人
さくら会実行委員	第３日曜日	施設内	10 回	18 人
のんびり会	第４水曜日	別紙参照	8 回	19 人
わかば鉄道	第４日曜日	施設内	8 回	49 人
園芸	木曜日	田園びっくりぱーく	13 回	14 人
Wii ゲーム	不定期	施設内	48 回	149 人
公園へ行こう	４月・１０月 日曜	荒山公園	3 回	21 人
ゲーム大会	４月 11 日	施設内	1 回	7 人
バスボム作り	４月 日曜・祝	施設内	2 回	7 人
プラ板マグネット作り	7 月 日曜・祝	施設内	3 回	18 人
連続勉強会（SNS）	7 月 日曜	施設内	2 回	15 人
色鉛筆アクセサリー	8 月 日曜・祝	施設内	1 回	6 人
縁日ゲーム大会	10 月 日曜	施設内	3 回	24 人
タイルコースター作り	10 月 日曜・祝	施設内	2 回	7 人
避難訓練	11 月 日曜・祝	施設内	2 回	15 人
クリスマス会話し合い	11 月 7 日	施設内	1 回	7 人
LED ランプのキャンドル作り	11 月・12 月	施設内	5 回	18 人
ダーツ	不定期	施設内	15 回	40 人
クリスマス会	12 月 日曜	施設内	4 回	37 人
忘年会	12 月 28 日・29 日	施設内	2 回	19 人

プログラム名称	日時	実施場所	延べ活動 回数	延べ参加 者数
身体障害者学生交流会	12月4日・2月24日	施設内・zoom	2回	7人
新年会	1月4日	施設内	1回	6人
初詣へ行こう	1月 日曜	施設内	2回	18人
毛糸のアクリルモップ作り	1月 日曜	施設内	2回	7人
チョコ詰め放題	2月 常設	施設内	5回	22人
梅のお花見	3月6日	荒山公園	1回	7人
ステンドグラス風シール作り	3月 日曜・祝	施設内	3回	13人
合計（年間延べ活動回数）				157回
合計（年間延べ参加者数）				687人

3. 今年度の総括

委託事業を受託した令和3年4月から令和6年3月末までの1年目を終えた。わかばも10年目となるため継続して利用している利用者に加え、今年度は6名の新規契約があり契約者は71名（1名解約）となった。これまでは、知的障害を主障害とし身体障害や精神障害と重複の方の利用はあったが、今年度は身体障害のみ、精神障害のみという方々の契約も行った。障害種別が多様化していく中で、相互理解に至りにくい際には職員が仲介する場面もあったが、お互い気遣ったり、助言し合う、誘い合いゲームに取り組むなど、当事者間でのやり取りが多くみられた1年であった。また地域活動支援センター連絡協議会の立ち上げ、今年度は幹事センターを担いよりよい地域活動支援センター作りに尽力してきた。

コロナ禍以降、感染予防をしながら実施できる取り組みを利用者とともに試行錯誤してきたが、利用者も手洗い・マスク・食事の配慮・健康管理など非常に協力的であり、濃厚接触者になった際の相談についても積極的に行ってくれた。その結果、的確な助言を行うことができ、人ごみに出ていく機会が多い方には大阪府が実施している無料検査事業を紹介したり、高齢者スマホ検査センターについても活用しながら適宜検査を受けることができるよう支援してきた。地域活動支援センターは、常勤1名・非常勤1名の職員配置であり、職員が濃厚接触者となったり罹患したことで予定通りの開所が困難となった時期もあった。委託元とも相談しながら、また地域支援部の協力を得て一時的に時間を短縮して開所する、職員確保ができない日を閉所し、振替で開所するなど工夫しながら、居場所の提供を続けてきた。コロナ禍での息苦しさや大変さはありつつも、コロナ禍だからこそ見える一面や改めて地域活動支援センターの必要性を感じることができた1年でもあった。今後も多様化する支援に少しでも追いついてけるよう視野を広げる研修などに積極的に参加し、職員の質を高め、地域や利用者が必要とされる事業所となれるよう努力していきたい。

令和３年度 居宅介護・移動支援「陽だまり」事業報告

「堺あすなろ会」の特徴を反映して、ヘルパー事業は知的障害者へのガイドヘルパーの派遣が 90%以上になっています。作業所などが休みの土曜日・日曜日・祝日のガイドヘルパー利用が中心です。入所施設(堺市内 2 施設)利用者のガイドヘルパー利用では平日のガイドヘルパーの利用も多くなっています。

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律上、ガイドヘルプサービスは、福祉サービス（介護給付）から外され、市町村が行う地域生活支援事業の中の「移動支援事業」として位置づけられています。

新型コロナウイルスにより移動支援の利用の自粛や時間の短縮が多くありました。

令和２年度～令和３年度の実績は次の通りです。

利用人数	令和２年度	令和３年度
移動支援	397 名(月平均 33 名)	377 名(月平均 31 名)
知的障害者（在宅）	110 名(月平均 9 名)	97 名(月平均 8 名)
知的障害者（施設入所者）	287 名(月平均 24 名)	280 名(月平均 23 名)
身体介護	53 名(月平均 4 名)	60 名(月平均 5 名)
重度訪問介護	12 名(月平均 1 名)	11 名(月平均 1 名)
家事援助	6 名(月平均 0.5 名)	12 名(月平均 1 名)
合計	468 名(月平均 39 名)	460 名(月平均 38 名)

利用時間	令和２年度	令和３年度
移動支援	3,606 時間(月平均 300.5 時間)	3,171 時間(月平均 264.0 時間)
知的障害者（在宅）	1,359 時間(月平均 113.0 時間)	1,111 時間(月平均 92.5 時間)
知的障害者（施設入所者）	2,247 時間(月平均 187.5 時間)	2,060 時間(月平均 171.5 時間)
身体介護	290 時間(月平均 24.0 時間)	273 時間(月平均 23.0 時間)
重度訪問介護	235.5 時間(月平均 19.5 時間)	210 時間(月平均 17.5 時間)
家事援助	52.5 時間(月平均 4.5 時間)	114 時間(月平均 9.5 時間)
合計	4,184 時間(月平均 348.5 時間)	3,768 時間(月平均 31.04 時間)

	令和２年度	令和３年度
登録ヘルパー(実動者)	20 名	13 名

令和 3 年度 障害児通所支援事業 事業報告

(Link みいけ・Link にわしろ・Link ふかい)

Link みいけ (放課後等デイサービス)

<利用者数> (令和 4 年 3 月 31 日時点)

	定員	登録者数	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率
放課後等デイサービス	10 名	24 名	2,037 名	7 名	70%

<活動内容>

感染対策を取り 少人数にて近隣の公園に出かけ近隣の方々と関りを持ちながら遊具や虫取り等をした。
近隣の緑道や松尾寺公園やフォレスガーデン等、季節感のあるものを散策に行った。

散歩・ウォーキング・ランニングを区別し個別に配慮し距離や速度また、フォームにも気をつけて個別または小集団にて実施した。

雨天時には室内で密にならないように活動を実施した。

<創作活動>

4 月 桜の木／5 月 鯉のぼり／6 月 かたつむり／7 月 七夕壁画／8 月 布巾 (ミシン)・花火壁画
9 月 敬老の日プレゼント (ハンガーデコレーション)／10 月 書道

11・12 月 クリスマス製作 (スノードームオーナメント)／1・2 月 獅子舞作り／3 月 ぼんぼり作り

<食事提供>

感染対策の為 少人数の職員にて調理配膳行い提供のみ行う。

4 月 昼食提供 (カレーライス)・昼食提供 (焼きそば)・昼食提供 (ラーメンギョーザ)

7 月 昼食提供 (カレーライス)・地震避難訓練後非常食提供

8 月 昼食提供 (カレーライス)

12 月 昼食提供 (カレーライス)

1 月 昼食提供 (カレーライス)

3 月 昼食提供 (カレーライス)

<音楽療法>

月 2 回講師の方 2 名に来て頂き実施。

・第 1 水曜 グループ A・B…各 30 分ずつの 2 部制で実施。

・第 4 水曜 グループ C・D…各 30 分ずつの 2 部制で実施。

<陶芸>

基本、第 1・3 金曜、第 2・4 火曜日に講師の方に来ていただき実施。

マンツーマンにて 1 作品ずつ丁寧に指導していただく。

できた作品は持ち帰る。

<野外活動>

4 月 お花見／8 月 ファインプラザ／10 月 ハイキング

11 月 味覚狩り ムラタケ農園 ファインプラザ／12 月 ファインプラザ

1 月 初詣 (大鳥大社) ファインプラザ／2 月 ファインプラザ

3 月 関西サイクルスポーツセンター

<お仕事体験>

夏休み期間中に高校生対象で一人 1 時間程度、就労継続 B 型にて作業を行う。

<クリスマス会>

お部屋の飾りつけを一緒に行い、絵本、紙芝居の読み聞かせ、クリスマスソングの合奏、手話、ビンゴゲーム、プレゼントなど行った。

<避難訓練>

7月	地震避難訓練	(自主訓練)
11月	火災避難訓練	(自主訓練)
2月	火災避難訓練	(立会い訓練)

<タブレット>

時間を決めてipadで遊ぶ。

<課題の時間>

各自、学校の宿題やこちらが準備した課題プリントや作業に取り組む。

<送迎>

各学校の下校時間に合わせて迎えに行く。必要に応じて帰りの送迎も実施。

土曜日、長期休暇時は必要に応じ自宅まで送迎を実施。

*送迎実施校

- ・支援学校 2校(上神谷支援 泉北高等支援)
- ・地域小学校 5校(御池台 美木多 赤坂台 竹城台 原山台ひかり)

Linkにわしろ(児童発達支援・放課後等デイサービス)

《利用者数》(令和4年3月31日現在) 開所日数:288日

	定員	登録者数	年間延べ利用者数	平均利用者数	稼働率
①児童発達支援	5名	5名	175名	0.6名	12%
②放課後等デイサービス	5名	26名	2,023名	7.0名	140%
合計①+②	10名	31名	2,198名	7.6名	76%

児童発達支援

《活動内容》

① 設定保育

子ども一人一人が興味・関心を持つことができるように活動内容を設定し、集中して取り組むことを目標に支援した。

・工作

季節や年中行事に合わせて内容を設定。

じっくりと製作に取り組めるように時間と場を設け、できる限りマンツーマン対応になるように職員を配置。個々の発達段階にあわせ工程や材料、道具を準備した。

同じ内容や工程を取り入れ、くり返し行うことで、見通しを持って取り組めること、スキルアップを目指した。

4月	・壁面 さくら(スポンジスタンプ)	6月	・父の日 メッセージカード (タンポでステンシル)
5月	・壁面 こいのぼり(手形スタンプ) ・母の日 メッセージカード (タンポでステンシル)	7月	・七夕 (笹飾りスズランテープで流れ星)

8 月	・壁面 かき氷（指スタンプ）	12 月	・クリスマス会準備 プレゼントボックス
9 月	・敬老の日 絵はがき（スタンプ） ・おばけカボチャ	1 月	・壁面 鬼の面（絵の具）
10 月	・ハロウィンパーティ準備 壁面かぼちゃ・おばけ（絵の具） 菓子バック（折り紙）	2 月	・壁面 おひなさま
11 月	・壁面 クリスマスツリー	3 月	・壁面 さくら（スタンプ）

・感覚あそび

ふれあい遊び、砂遊び、歌やダンスなどのリズム遊び、体操など。

夏に行っていたプール遊びは、新型コロナウイルス感染防止の為、中止とした。

・サーキット遊び(室内)

ジャングルジムや平均台、トランポリンなどを使って、コースを設定。運動機能の向上を促した。

・外遊び（めじろ公園・うぐいす公園・御池公園など近隣の公園を利用）

戸外遊びや散歩などを通して、自然に触れ合うことができるように取り組んだ。

公園までの移動中などは「集団」で行動することを意識できるよう支援した。

・自立課題

個々の発達段階や興味に合わせ、自立課題を設定し、取り組んだ。年少児は指先を使う課題を中心に、年長児は就学を意識し、運筆なども取り入れた。

② 季節や行事に合わせたイベント

- ・ハロウィンパーティ（10 月）

スタンプラリー、魔女探しなど

- ・クリスマスパーティー（12 月）

プレゼント運びゲーム、サンタクロース探しなど

- ・節分（2 月） 豆まきゲーム

- ・おでかけ 大阪狭山市立ふれあいの里（11 月）

*味覚狩り（秋：みかん 春：いちご）は、新型コロナウイルス感染防止の為、中止とした。

③個々の発達段階に応じた取り組み

- ・スケジュールカードなどを取り入れた視覚支援

- ・トイレトレーニング

- ・食事指導

④放課後等デイサービスとの交流

「ハロウィンパーティ」「おでかけ」「クリスマス会」

《送迎》

送迎サービスは行わず、送り迎え共に保護者様に送迎をお願いする。

放課後等デイサービス

《活動内容》

① 創作活動

季節の行事などに合わせた内容の壁面づくりや製作を行った。

みんなで協力して 1 つの作品を作り上げる集団製作にも取り組んだ。

母の日・父の日・敬老の日等のプレゼント製作は、身近な方に喜んでもらう、褒めてもらうことで達成感を感じ、取り組みへの意欲につながるよう支援した。

4 月	・こいのぼり（個人・集団） 個々で製作した鯉（小）を鯉（大）の 鱗に見立てこいのぼりを制作	10 月	・ハロウィンパーティ準備 お菓子バック（個人） おばけカボチャ（集団）
5 月	・母の日（個人） フラワーアレンジメント 花器はペットボトルを使用	11 月	・季節の製作 みのむし（個人） 巻く ちぎる 貼る トイレットペーパーの芯を使用 トトロ（集団） 落ち葉を使って
6 月	・父の日（個人） マスクケース (クリアファイルを使用)	12 月	・クリスマス（個人） オーナメント（巻く 貼る） トイレットペーパーの芯を利用 ・年賀状（個人） 筆文字 ・しめ縄づくり（集団）
7 月	・七夕（個人・集団） 短冊（彦星・織姫） 笹飾り	1 月	・節分（個人） 鬼のモビール
8 月	・季節の製作 風鈴（個人） ペットボトルを使用	2 月	・ひなまつり（個人） おひなさま壁飾り 自分の顔写真を使って
9 月	・季節の製作（個人） ぶどう（包む 巻き付ける） ・敬老の日（個人） 手形アート		

② レクリエーション（室内）

ピンポン玉リレー、サーキット、オセロ・トランプ等のゲーム遊び等、ソーシャルディスタンスを意識しながら行った。

チームでの協力や友達の応援をすることで、他児とのかかわりの楽しさを感じ、ルールや順番を守ることができるよう取り組んだ。

③ 外遊び

(近隣の公園・コスモ中央公園・荒山公園・松尾寺公園・家原大池公園など)

公園等にでかけ、遊具を使うなど体を大きく動かして遊ぶことで、運動機能や心身の発達を促すよう取り組んだ。

外での活動の際は、交通マナー・歩行中の危険個所の確認等意識して移動できるよう取り組んだ。また、公園等を利用している一般の児童と空間を共有することで、遊び方やコミュニケーションの取り方、ルール等を体験し学ぶ機会を作った。

遊ぶ前後には、手指の消毒を行い、新型コロナウイルス感染予防対策を身につけてもらうよう支援した。

④ クッキング

新型コロナウイルス感染防止の為、中止。

7・8月のみ、おやつにかき氷を実施。児童はマスクを着用し、かき氷機の操作のみ行う。毎回かき氷機の消毒を徹底し、トッピング等は消毒後一人のスタッフが行う。調理器具の正しい使い方、安全に操作するための工夫などを繰り返し伝えた。

お月見、ひなまつりなど日本の伝統行事の期間は、和菓子等を季節を感じることができるおやつを提供した。

⑤ ミュージックケア

月 2 回実施 第 2 水曜日 15:30～16:30 第 4 月曜日 14:00～15:00

外部講師（認定音楽療法士）による指導。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoom を使用し講師はオンラインにて指導、児童は事業

所より参加し、実施する。主に低学年に参加してもらうようにした。長期休暇などは全員の参加となる為、2部屋に分かれ、密にならないように努めた。

⑥ 書道

月2回程度実施

曜日は固定せず、多くの利用児童が参加できるように日程等を調整し、取り組んだ。

季節の花や食べ物の名前を書くようにし、季節感を感じるように努めた。発達段階に応じて、文字を書くことだけではなく、「毛筆で書くこと」を楽しんでもらうように支援した。

⑦ 課題（学習）

学校の宿題やプリント（事業所で準備）などの机上課題に取り組む時間を設定。

個々に合わせて自立課題（マッチング、プットイン、パズル、塗り絵など）を設定し提供した。

⑧ おでかけ

土曜日・長期休暇、学校代休日に企画した。さまざまな社会体験ができる内容を取り入れた。

コロナ禍の為、社会体験ができる工場見学等は行うことが難しく、公園での外遊びが中心となった。

今年度も、新型コロナウイルス感染予防の為、レストランなどへの外食は控え、始業式や終業式の日の昼食は、宅配弁当・マクドナルド等のテイクアウトを利用した。

4月（春休み）	岸和田城 浜寺公園 花の文化園 大泉緑地
7月	ファインプラザ
8月（夏休み）	ファインプラザ
10月	永楽ゆめの森（代休）
12月	大泉緑地（代休）
冬休み	ファインプラザ（運動療育支援）
3月（春休み）	原池公園 錦織公園 花の文化園 食べる大切ミュージアム プラネタリウム ファインプラザ

⑨ その他

- ・個々の発達段階に合わせて支援を提供し、身辺自立を促した。
- ・ソフィア堺や図書館・プラネタリウム・食べる大切ミュージアム等の公共施設を利用した。
- ・季節の行事（ハロウィンパーティー クリスマス会など）はイベントを企画した。ハロウィンパーティー、クリスマス会は児発と合同で実施。「豆まき」は新型コロナウイルスの感染が幼児にも拡大していた為、合同での実施を控えた。
- ・誕生日会を実施。誕生日児童の希望のおやつを用意し、友達や職員と成長を喜び合う時間を設けた。
- ・絵カードを利用し、スケジュールや準備等をわかりやすく提示した。自由遊び時は、絵カードが貼りだされているボードを利用し、視覚支援を行い、遊びたいおもちゃを選び、職員に伝えてもらうように取り組んだ。
- ・長期休暇中、外出の機会が少なくなった為、初めての取り組みとして「にわしろ縁日」を企画。ゲームコーナーの準備などから児童も参加し作り上げた。食べ物コーナーは、1人の職員が対応する。子どもは店番とお客さんと役割も交代で行った。

⑩ 児童発達支援との交流

季節の行事の活動の中で役割を任すことで、児童発達支援の子ども達に対して、年長者としての振る舞いや、行動を意識する機会を持った。

《送迎》

各学校の下校時間に合わせてルートを設定する。

帰り、土曜日・長期休暇は原則保護者にて送迎を行ってもらう。

必要に応じて送迎を実施した。

【送迎実施校】

- ・支援学校 1校（上神谷支援）
- ・地域小学校 11校（庭代台 御池台 原山ひかり 城山台 美木多 新檜尾台 桃山台 若松台 茶山台 三原台 宮山台）
- ・自宅への送迎が必要な方：1名

児童発達支援・放課後等デイサービス 共通

《生き物や植物の飼育・栽培》

- ・生き物や植物と身近に触れ合い、飼育・栽培することによって生き物に興味や関心、親しみを持てるよう取り組んだ。

通年：めだかの飼育

5月～ きゅうり・トマト・オクラ・朝顔・風船カズラ・キバナコスモス

7・8月～ きゅうり・トマト・オクラ収穫

《避難訓練》

8月 火災避難訓練（自主訓練）

11月 防災避難訓練・避難経路確認（自主訓練）

3月 火災避難訓練（自主訓練）

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、自主訓練のみとなる。

Link ふかい（放課後等デイサービス）

《利用者数》（令和4年3月31日現在）

	定員	登録者数	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率
放課後等デイサービス	10名	21名	1,876名	6名	64.4%

《活動内容》

＜創作＞ 季節に応じた内容の創作活動に取り組む。

紙等を切る・貼る・折る等の工程を個々に合わせて準備する。

7～8月	歯ブラシ置き（石粉粘土）とポーチ（古着Tシャツ活用）作り
8月	アートフィスティバル出展作品「押し花アート」「竹筆書道（象形文字）」
12月	日めくりカレンダー作り

＜クッキング＞ 従来は準備（材料の調達・買い出し）も含めて実施内容としている。

今期も新型コロナウイルス感染防止の徹底のため、調理等は全面的に中止。

＜土曜日・長期休暇等の活動＞

博物館や社会見学を通して知識を広げ、公園などで自然に触れ様々な経験を増やす。

4月1日	6名	白木山公園	土曜日	荒山公園
4月2日	7名	近つ飛鳥博物館		白鷺公園
4月3日	6名	堺海とのふれあい広場		コスモ中央公園
4月5日	8名	狭山池公園		水賀池公園
4月6日	6名	和泉リサイクル環境公園		原池公園
4月7日	5名	烏帽子型公園		蜻蛉池公園
7月31日	7名	ソフィア堺		泉南りんくう公園
8月4日	6名	食べる大切ミュージアム		
8月6日	5名	自転車博物館		
8月10日	6名	堺都市緑化センター		
8月12日	5名	狭山池博物館		
8月17日	3名	ソフィア堺		
8月18日	6名	堺自然ふれあいの森		
8月20日	6名	さかい利晶の杜		
8月26日	8名	堺市博物館		
8月25日	8名	和泉リサイクル公園		

1 2 月 2 7 日	7 名	大浜公園		
1 2 月 2 8 日	6 名	ラウンドワン		
1 月 5 日	7 名	野々宮神社		
3 月 3 1 日	8 名	食べる大切ミュージアム		

<作業訓練>

- ・ 作業能力に関する 24 項目（社会面と技術面）の評価と個別の目標設定。
- ・ 毎回の訓練記録と定期的にモニタリングを行う。個別支援計画にも反映。
- ・ 「巧緻性」「正確性」「効率性」「生産性」等を総合的評価・アセスメントを作成。
- ・ 「集中力」「忍耐力」「判断力」「理解力」等を高めるソーシャルスキル訓練。

【訓練内容】

- ・ 「封筒」「梱包」「仕分け」「ネジの組み立て」「検品・数量管理」「ミシン縫い」
- ・ パソコン（タイピング練習はローマ字入力でビジネス文書や表作成）
- ・ 工具作業（ドライバー・レンチ等）計量作業・タオル折り・施設内清掃・面接と接客訓練

<避難訓練>

1 0 月 地震避難訓練（自主訓練） 3 月 地震火災避難・経路避難訓練（自主訓練）

<送迎>

- ・ 支援学校・地域の学校への迎え、自宅への送りを実施。
- ・ 土曜日及び長期休暇期間は自宅への完全送迎。
- ・ 自宅への送迎 21 名

【送迎実施校】

- ・ 支援学校 2 校（上神谷支援 泉北高等支援）
- ・ 地域小学校 2 校（三原台 福泉中央）
- ・ 地域中学校 1 校（原山台）

3 事業所共通

<保健>

- ・ 健康診断 年 1 回 新型コロナウイルス感染拡大予防のため
- ・ 健康相談 地域産業保健センターの健康相談を利用

<研修>

実施日	テーマ及び講師	備考
8 月 7 日	「堺あすなろ会 法人理念について」 「虐待防止・権利擁護について」	Link
9 月	「メンタルタフネスを高める」	法人研修
10 月 23 日	メディパスアカデミー介護利用「障害者虐待について」 「自己覚知～自分を知ろう～」	Link
11 月 24 日	障害児通所支援事業者育成事業研修 「子どもの豊かなコミュニケーションのために」 講師：大阪府立大学 木曾 陽子氏	
12 月 6 日	障害児通所支援事業者育成事業研修 「問題行動への対応」 講師：大阪大谷大学 小田 浩伸氏	
12 月 11 日	アプリコット堺 オンライン公開講座 「発達障害 子育ての工夫とコツとミカタ」	

実施日	テーマ及び講師	備考
12月11日	・令和3年度活動報告 ・安全運転講習会	Link
2月10日	児童発達支援にかかる交流会 「子どもの行動の理解（感覚統合の考え方から）」 講師：第2つぼみ園 作業療法士	
2月19日	事例検討会 ⇒コロナ禍の為、延期	Link
3月10日	障害児通所支援事業者育成事業研修 「愛着につまずきが見られる子どもについて」 講師：NPO 法人ぴーす 臨床心理士 永原 亜裕美氏	
10月12日 11月9日 12月14日	アプリコット堺 連続勉強会 ① 発達障害の基本的理解 ② 困った行動の背景と対応を考える ③ ケースの全体像を理解する	
随時	スキルアップのため、研修案内等の各研修に参加 (発達障害について) (安全講習) (虐待防止) など	

今年度のまとめ

今年度も新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きく、子どもたちの活動に制限をかけることになった。様々な制限がかかる中状況に応じて、内容や取り組み方を検討した。

手指の消毒、利用時の検温、共有部分（トイレ・洗面所など）の消毒、換気など、感染予防対策を徹底し、療育に取り組んだ。

2月上旬ごろより、児童のご家族、利用児童にコロナ罹患者、濃厚接触者が少しずつ増えていった。その都度、行動履歴の確認・対象児童、職員への抗原検査の実施を行い、感染拡大防止に努めた。

「Linkにわしろ」においては、職員の罹患が発覚し、施設の消毒や、全職員の検査などを行う為、2月24日（木）から26日（土）まで、事業所を閉めることとなった。この時期は、各学校も学級閉鎖や学校閉鎖が増え、キャンセル・欠席が多くなった。学級閉鎖や学校閉鎖時は利用を自粛していただいている。「在宅支援」という選択肢もあるが、取り組み方や保護者への周知ができていない為、取り組めていない。今後、「在宅支援」「家庭連携加算」など、事業所に来ることができない利用児・ご家族に対する支援方法・サポートの検討が必要である。

「みいけ」が10年目、次に「にわしろ」が10年目を迎える。他事業所の利用を開始するため、契約終了となるケースが増えてきている。ご家族の希望に添えない為（送迎、利用時間など）が理由となっている。予約率や稼働率が伸び悩んでいることもある為、事業所の在り方などを再構築するために、療育方針・活動内容等引き続き考えていきたい。

療育支援事業（あい・すてーしょん）（堺市委託事業）

【1】 障害児等療育支援事業

（1）訪問療育等指導

年度内登録者・実績なし

（2）外来等療育指導

年度内登録者・実績なし

*上記2つはサービス支給決定前の児童が対象であり、受給者証を持たずにLinkの療育を体験する、もしくは自宅訪問してもらい療育を受ける、という内容である。本来は療育を受けるべき児童がなんらかの理由でサービスにつながりにくい状況にあるものをサービスの体験や自宅への訪問療育というスモールステップを踏んで、サービス（療育・支援）につなげていくための事業であり、保護者に体験や訪問療育を希

望してもらって初めて登録に至り、体験・訪問をして初めて実績となる。保護者がわが子の発達課題に向き合えず、療育の必要性を理解できない場合などに必要とされる内容だと思われるが、そういった保護者や保護者と対応している関係機関（具体的には保健センター保健師や子育て支援課家庭児童相談員、保育園や幼稚園）からの相談はほぼなく、登録に至るケースもない。

一方、「サービスを使いたいののでわが子に合った事業所を紹介してほしい」「働きたいのでわが子にサービスを使いたいが、どういったサービスがあるのか」といった電話相談は多くある。2022年度以降はこの電話による相談をどう実績にしていけるか、この事業を関係機関にどう周知していくかが課題である。

（１）施設支援

今年度は主に２つの支援を行った。

① 放課後等デイサービスの継続支援

育成事業（年３回訪問）では支援が足りない事業所をこの事業に切り替えて頻回に訪問しながら支援を継続している。職員の育成、管理者の相談対応、個別児童の療育、家庭支援、関係機関との連携など多岐にわたる内容を年間通じて対応している。

② 児童養護施設入所中のサービス利用

今まで児童養護施設に措置されている子どもたちは福祉サービスを利用できなかったが、家庭児童と同じようにサービスを利用できるようにしようという流れになってきた。それを受けて、堺市でも児童養護施設に措置されている子どもたちの児童発達支援や放課後等デイサービスの利用を求める声が施設からあがってきた。計画相談支援が使えないこともあり、子ども相談所と協力しながら、施設を訪問し児童の観察を行い、療育の必要性を関係者で話し合い、必要に応じてサービスにつなぎ、モニタリングを行っていく作業を担っている。堺市内４施設（東光学園、清心寮、愛育社、泉ヶ丘学院）と岸和田学園を訪問している。３名がもず園、１名が放課後等デイサービスの利用に繋がっている。

1 名簿登録数

	重症心身障害児	身体障害児	知的障害児	精神(発達)障害児	その他
前年度末	0	0	0	0	0
当年度登録者数	0	0	0	0	0
当年度登録解除者数	0	0	0	0	0
当年度末	0	0	0	0	0

2 実施件数

	重症心身障害児	身体障害児	知的障害児	精神(発達)障害児	その他
訪問	0	0	0	0	0
外来（個人）	0	0	0	0	0
外来（グループ）	0	0	0	0	0

	実施回数	延べ参加人数
施設支援指導	28	31

3 職種別実施状況

	医師	看護師	理学療養士	作業療養士	指導員	保育士	相談支援員	その他	合計
訪問									
外来									
施設支援指導							28		28

【2】地域支援特別事業（32回開催）

- ① 運動支援プログラム 21回 ZOOM 配信
- ② あい・ふぁいる活用セミナー 3回（参加者なく実施せず）
- ③ 児童計画勉強会 4回
- ④ 車いす学生交流会 2回
- ⑤ 防災ワークショップ
- ⑥ 進路セミナー

今年度初めて「運動支援プログラム」と「車いす学生交流会」に取り組んだ。

- ・運動支援プログラム：毎月2回実施。年間の取り組みを通じて子どもの体幹を鍛え、からだを上手に使えるように支援する。外部コーチの協力を得ている。主に ZOOM で配信しているので参加児童の兄弟児や保護者も一緒に取り組める。
- ・車いす学生交流会：大学就学支援事業が令和元年から実施され、この事業を利用して大学に進学する学生が堺市でも複数人になってきたため、その方たちをつなぎ、交流する場を企画した。（4名参加）今後は情報交換や勉強会、先輩の話を聞くなどを積み重ね、これから大学進学を目指す高校生・中学生の車いすユーザーへの発信などに取り組んでいく予定。
- ・児童計画勉強会：児童の計画相談を行っている相談員が集まって資質の向上を目指している。コミュニケーションを円滑にする勉強会や社会資源の見学に取り組んだ。コロナ禍で集まりが持ちづらく、4回の開催に留まっている。
- ・防災ワークショップ：支援者（放課後等デイサービス事業所）の参加が多く、ZOOM での開催になったため、各事業所複数人の参加があった。その事業所ごとに発災時のシミュレーションをグループワークしてもらい、好評を得た。
- ・進路セミナー：軽度発達障害児の中学卒業後の進路について外部講師に話をしていただいた。保護者の関心が高く、参加者も多かった。
- ・あい・ふぁいる活用セミナー：参加希望者がなく、企画したものの一度も実施できなかった。あい・ふぁいるそのものが書くことから離れつつある若い世代の保護者たちには活用しづらく、セミナーの参加にはつながらなかったのではないかとと思われる。今年度は堺市でもこのあい・ふぁいるの電子化が検討される予定。

どの研修も保護者より支援者の参加が多く、「保護者に研修等開催の情報を直接届ける」「保護者のニーズに合わせたテーマ・内容・日時の開催」が課題。また現在は取り組めていない保護者の集まりや親子広場などゆるやかに参加できる機会と場所の確保も課題である。

【3】障害児通所支援事業者育成事業

13事業所を担当した。1事業所年間3回訪問、39回の支援実施。

相談内容は「事業運営」（職員配置・職員育成・加算等）、「保護者・関係機関」（相談支援機関や学校との連携、家庭支援等）「個別利用児」（療育中の困りごと等）、プログラムや企画内容（障害の程度に応じたプログラム内容等）と多岐にわたる。この事業を受託している4法人でお互いにカバーしあいながら支援している。何年か継続して支援させてもらっている事業所もあり、訪問時以外にも「聞きたいこと」「困ったこと」があれば電話で相談されることも増えてきた。3回を超えて支援の必要があれば療育支援事業の中の施設支援に切り替え、訪問支援を行っている。

この事業を通じて把握した事業所ニーズを受託4法人で持ち寄り、年3回の研修テーマを決め、合同で開催している。今年度は YouTube を利用してのアーカイブ配信も実施でき、より多くの事業所に研修参加してもらうことができた。

「子どもとの豊かなコミュニケーションのために」（大阪府立大学 木曾陽子氏）

「問題となる行動の理解と対応」（大阪大谷大学 小田浩伸氏）

「愛着につまずきが見られる子どもの理解と支援について」（NP0 法人ぴーす 永原亜裕美氏）